

「合理的配慮の提供」を効果的にするための 個別の指導計画の作成（その4）

今年度も残すところあと1か月余となりました。各学校では、この1年間の支援の評価を行い、来年度に向けて「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の見直しが行われることと思います。

校内委員会での話し合い、関係機関との連携、本人・保護者との面談等を通して、各計画の見直しを行い、来年度への引継を確実に行いましょう。

学習指導要領等改訂の基本的な方向性 ※中央教育審議会答申から抜粋

5. 教育課程全体を通じたインクルーシブ教育システムの構築を目指す特別支援教育

○特別支援教育に関する教育課程の枠組みを、全ての教職員が理解できるよう、**通級による指導や特別支援学級における教育課程編成の基本的な考え方**をわかりやすく示していくことが求められる。また、幼・小・中・高等学校の通常の学級においても、発達障害を含む障害のある子供が在籍している可能性があることを前提に、**全ての教科等において指導の工夫の意図、手立ての例**を具体的に示していくことが必要である。

○通級による指導を受ける児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒については、「**個別の教育支援計画**」や「**個別の指導計画**」を**全員作成**することが適当である。

※詳しくは、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm

※改訂学習指導要領案の意見公募手続き（パブリック・コメント）が3月15日まで実施されています。

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185000878&Mode=0>

「個別の指導計画」は一人一人が輝くためのツールです！！

☆事例Dさんについて

Dさんは、通常の学級に在籍している中学1年生です。

小学校からは「相手の気持ちを察したり周りの状況に合わせて行動したりすることが苦手である」という引継がありました。学習面では、意欲的に取り組んでおり、特に漢字の読み書きが得意です。人との関わりでは、大人とは関わることはできますが、友だちとは話をすることはほとんどありません。友だちと仲良くしたいという思いはあるようですが、うまくいきません。

最近では、生活リズムが不規則だったり友だちの些細な言葉が気になったりして、遅刻や欠席が増えてきています。登校しても相談室で過ごすことが多くなってきました。

保護者は、毎日登校し、自信をもって行動できることを増やしてほしいと願っています。

※この事例は、千葉県特別支援教育「**個別の教育支援計画**」作成の手引きのページから引用しました。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shien/kobetunokyousienkeikaku.html>



1年〇組 児童生徒氏名 Dさん の個別の指導計画					
◇生育歴 ・〇〇幼稚園 卒園（平成〇〇年〇月） ・〇〇小学校 卒業（平成〇〇年〇月）					
◇支援が必要だと思われる状況 ・みんなの行動に合わせられず、遅くなる。遅刻をしてしまう。 ・欠席が多い。登校しても教室に入れず、相談室で過ごすことが多い。					
◇これまでの取組 ・Dさんの行動を細かく把握・分析する。（職員全員で協力） ・担任やコーディネーターが、Dさんが好きな電車的话题でコミュニケーションをとるきっかけ作りをする。 ・保護者と、家庭生活の充実について話をする。					
◇他機関での支援 ・〇〇市教育センター内 特別支援教育担当による教育相談（平成〇〇年〇月〇日 保護者相談） ・発達障害者支援センターに訪問（平成〇〇年〇月〇日 本人・保護者相談）					
本年度の目標（28年度） 1. 毎日、登校することができる。 2. 1日、学校で過ごすことができる。					
短期目標（28年度：1月～3月まで）					
	現 状	目 標	主な支援方法・内容	経過(記入日記載)	評価と課題(記入日記載)
生活面	○周囲の状況の把握に時間がかかり、そのために行動が遅れる。 ○前日の同級生とのもめごとや、何気ない一言が気になって、登校できないことがある。	○遅刻をせずに登校する。 ○大人とのコミュニケーションの機会を増やす。	○Dさんとの関わりを増やし、 <u>コミュニケーションがとれる大人を増やす</u> 。 ○情緒の安定のため、 <u>スクールカウンセラーとの面談を週1回設ける</u> 。	○家庭生活にも改善が見られ、遅刻や欠席が減ってきた。 (〇月〇日記載)	○大人との関わりの中で、好きな話題だけでなく、 <u>自分の気持ちや考えを話す</u> ようになってきた。 ○同級生と関わる機会を増やすため、 <u>教育センターから担任がアドバイスを受ける予定</u> である。 (〇月〇日記載)
学習活	○欠席や相談室で過ごすことが増えたことで、教科等によって学習内容の理解に、差が大きくなった。	○教室で過ごす時間を増やし、授業にも参加できるようにする。	○各教科等で <u>少人数指導やグループ活動</u> を取り入れる。 ○本時の学習に <u>見通しが持てるような提示方法や板書</u> を各教科等で心がける。 ○ <u>T・Tの授業や放課後等に個別の支援</u> を行う。	○漢字の学習に意欲的に取り組み、課題が終了すると次の課題を要求するようになった。 (〇月〇日記載)	○ <u>朝の会や朝読書の時間は教室で参加</u> するようになった。 ○授業への参加も増えた。説明は理解できるが、学級全体の動きから遅れることがまだある。 ○学級で <u>Dさんの状況や思いについて伝え</u> 、更に理解と協力を求める。 (〇月〇日記載)

詳しくは、通信 No.2へGo!
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-katsunan/documents/tokusituusin2.pdf>

詳しくは、通信 No.3へGo!
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-katsunan/documents/tokusituusin3-2.pdf>

提供した合理的配慮の成果について、必ず評価を行い、課題に対する今後の方向性を検討します。